これまでの研究

⁹⁰Sr Counter 開発研究
 J-PARC E36実験
 医療用PET開発
 表面α分析装置開発
 データベース開発

東京理科大での研究計画

神戸大学 2018.09.21 伊藤博士

1. ⁹⁰Sr Counter 開発研究

1. 90Sr Counter 開発研究

背景

- 福島原発後、福島漁業が未だ再開しない、原因の一つは⁹⁰Sr
- ⁹⁰Srは骨に蓄積するため¹³⁷Csと比較して摂取は危険
- 新鮮な海産物の短時間での⁹⁰Sr放射能濃度測定が要求
- 目的
 - -1時間で数十Bq/kgの⁹⁰Srを測定するために低BG化
 - ⁴⁰Kからのβ線や宇宙線μ由来の雑音を抑制
 - 大面積の有効面積



Dose coefficient by ICRP publ.

	⁹⁰ Sr (⁹⁰ Y)	¹³⁷ Cs
Eff. Coeff. (Sv/Bq) (Adult)	2.4×10^{-8}	4.6×10^{-9}
Red Marrow Dose Coeff. (Sv/Bq) (Adu (Infar	It) 1.6×10^{-7} It) 8.6×10^{-7}	4.4×10^{-9} 6.8×10^{-9}

1. ⁹⁰Sr Counter 開発研究





1. ⁹⁰Sr Counter 開発研究



1. 90Sr Counter 開発研究



2018/9/21

1. ⁹⁰Sr Counter 開発研究

Trigger counter performance





回路設計



2018/9/21

1. 90Sr Counter 開発研究



2018/9/21

В

1.⁹⁰Sr Counter 開発研究

線源を用いた性能評価測定



9









Internal Bremsstrahlung (IB)



Background: $Ke2\gamma$ (SD) $Ke2\gamma: K^+ \to e^+ \nu_e \gamma$ $\Gamma(Ke2) \sim 1.58 \times 10^{-5}$ $\Gamma(Ke2\gamma(SD)) \sim 9.4 \times 10^{-6}$ PDG'18/Eur. Phys. J. C 64 (2009) 627.



Structure Dependent (SD)





Ke2γ(SD+)のモンテカルロシミュレーション





MC Ke $_{2\gamma}$ model is ChPT(p⁶). V0=0.083, A0=0.034, λ=0.4 data 1γ MC Ke2y MC Ke3 **MC** total liminary P_e (MeV/c)



 μ -e universality violation search to determine $\Gamma(k_{e2\nu})$



3. 医療用PET開発

3. 医療用PET開発



PET: Positron Emission Tomography (陽電子放出核断層法)

対生成2rを測定してe+放出核の分布を取得 ガン検査、アルツハイマー、 新薬創生、動植物機能解明へ応用

Conventional Trend for Study

- いかに分解能を改善できるか
- 結晶をいかに細かく加工するか

PET module variations





Comitial type

Crystal Cube @NIRS





J-PET

3. 医療用PET開発





4. 表面 α 分析装置開発

4. 表面 α 分析装置開発

背景

- 神岡地下におけるDark Matter/ Ονββ-decay探索研究は大質 量・低放射能の検出器によってアプローチしている。 (XMASS, KamLand-Zen, NEWAGE, Candles, ...)
- 検出器部材選定のために、神岡地下実験のグループの枠を超えて放射能分析装置開発を進めている。
 (結晶内部不純物、表面α線、ラドン薄膜透過)
- NEWAGE-0.3a検出器を改造して材質表面から放射されるα 線(表面α線)を測定し、材質内U/Th放射能濃度を評価 する。

4. 表面α分析装置開発 2. 表面α線分析器









4. 表面α分析装置開発

low-alpha μ -PIC

$\mu\text{-PIC}$: Micro Pixel Chamber



4. 表面 α 分析装置開発





4. 表面α分析装置開発

Calibration run



4. 表面α分析装置開発

ガス循環システムの改良



4. 表面 α 分析装置開発

ガス循環システムの改良



5. データベース開発

背景

- 0vββ崩壊がみつからない、暗黒物質がみつからない
 - 実験装置を構成する「<mark>部材自身(表面付着物)</mark>」からの放射線が問題 - 実験装置の低バックグラウンド化が必須
- 各実験が「それぞれ独自」に測定、対策、評価を行ってきた

 測定結果が外部に公開されることは少なく、共有されにくい
 特に〇〇はダメだった」という情報は外に出ない
 小数名しかいない実験には負担が大きい
 測定したいサンプル
 >実際に利用できる測定器(Ge,ICP-MS)の数
 - 人材、時間、装置の利用の無駄につながる
- これらの問題を解消するためにデータベースを開発!



データベースの名称:MARACASに決定

Database of MAterial RAdiopurity for nuClear and AStroparticle physics





5. データベース開発



最近入れたデータref: XMASS-I detector: arXiv:1808.03617v1₃(2018).

東京理科大での研究計画

モチベーション
 開発業務
 運転業務
 物理解析

1. モチベーション

- 素粒子標準模型(SM)を超える新物理の探索
 - 宇宙粒子反粒子問題
 - ニュートリノ質量階層性
 - 暗黒物質

カミオカンデ … 超新星ニュートリノ初観測 スーパーカミオカンデ … ニュートリノ振動発見 陽子崩壊(e.g., $p \to e \pi^0$)はみつかってない(τ >10³⁴ yr)

- 今年SK-IVを終え、タンクオープン作業、SK-V, SK-Gdが始まる
 - Gdを最終的に0.2%入れてνとνを区別する。
 - 超新星背景ニュートリノの探索
 - CP対称性の検証
- SK後継実験のハイパーカミオカンデ(HK)が計画
 - 超新星ニュートリノ感度向上
 - ニュートリノ振動CP対称性検証
 - ニュートリノ振動の物質効果の精密検証
 - 陽子崩壊 τ_{max}=10³⁵ yrへ精度向上

2. 開発業務

HKで使用する光電子増倍管(PMT)の数は約5万本。これらの供給電源 と信号読出配線、回路は従来手法では実装が困難。特にPMTと反応率 増加のため、1事象あたりのデータ量が膨大になり、回路による発熱 や電波雑音が気になってくる。HK回路は水中に高電圧を配分するため のハブ回路をいくつか配備する計画が上がっており、主研究としてハ ブ回路の仕様設計および性能試験を遂行する。

HK回路開発における試験環境を東京理科大に建設する。水槽中に防水 された回路ユニットを沈め耐圧・発熱・雑音・漏電を試験する。*PMT への雑音をより抑えた供給回路を設計し試作することを開発の目標と* する。この回路に搭載する機能として数kVの自動印加、過電流安全装 置、電波防止などを検討している。

機能とコストを考慮してHK共同研究者会議で回路仕様と製造会社を決定する。5万本の回路を一斉に操作するために、遠隔で回路情報(ID, Alive/Dead, 温度, HV, current など)を管理・制御するソフトウェアの開発も進める。

3. 運転業務

- SKシフト:神岡へ出張、またはリモートアクセス して業務を遂行する。
 - SKタンクオープン(注水), SK-V, SK-Gd
- 坑内作業であるため安全第一で行う。

4. 物理解析

太陽ニュートリノ観測(⁸B, hep)におけるSKの閾値を下げる。現在、閾値付 近の検出効率がMCと一致していない。検出器応答模型を改善し、検出効率 のエネルギー依存性、カット効率、位置依存性などをデータと一致させる。

SK-V、SK-Gdが開始した直後、SK-IVとデータを比較する必要がある。 SKにおける太陽ニュートリノ観測は電子と $v_X + e^- \rightarrow v_X + e^- (X = e, \mu, \tau)$ の弾性散乱を見ている。 v_X と太陽の角度分布は $\cos \theta = 1$ にピークをもち、エネルギー領域ごとに比較する。また昼と夜で v_X が観測されるまでに通過する地球の物質量が異なる事象頻度差(昼夜変動)を調べて、ニュートリノ振動の物質効果を検証する。

SK-Gdでは0.02%から徐々に $Gd_2(SO_4)_3$ を充填し、0.2%まで充填する予定で ある。SKにおけるGd中性子捕獲事象同定アルゴリズム開発を主導的に進め、 超新星背景ニュートリノを探索する。特に、ニューラルネットワークを基 にした $v - \overline{v}$ likelihoodを実装し分離能力を向上させる。SK-Gdが始動したら 実データを使ってアルゴリズムの性能評価を実施する。また、システムを 汎用化させて大気ニュートリノ観測、陽子崩壊探索の解析に応用発展させ る。